

魔鏡とよばれる鏡

弥生時代中期・後期の集落跡を破壊して造られた水堂古墳（みずどうこふん）からは、三角縁神獸鏡（さんかくえん・さんかくぶち しんじゅうきょう）が出土します。（右写真）三角縁神獸鏡は、鏡の縁が三角形のように切り立っていて、背面の模様「神と獸（けもの）」が刻まれています。概ね直径が23cm前後で、鏡面がゆるやかな丘のように曲線的に盛り上がっています。この鏡は全国各地の古墳から出土し、500枚余りが確認されています。卑弥呼（ひみこ）が中国・魏（ぎ）に使いを送った「景初三年」（239年）を銘文に持つ鏡があるため、魏から贈られた鏡との説もある一方、中国では1枚も出土していないことから国産説も根強くあります。なお、2015年に中国の骨董市（こつとういち＝昔のものを売り買いする市場）で三角縁神獸鏡が発見されたという報告がなされ、これが中国の出土鏡になる可能性もあります。

また、2014年3Dプリンターを使用して、東之宮古墳から出土した三角縁神獸鏡の複製品（ふくせいひん＝まねて作ったコピー品）を作成して実験したところ、鏡の背面に刻んだ文様が浮かび上がる魔鏡（まきょう＝まほうの鏡）の現象が確認できたと、京都国立博物館が発表しました。三角縁神獸鏡は謎に満ちた神秘的な鏡です。



参考資料 apedia「水堂古墳」 Wikipedia「三角縁神獸鏡」

水堂古墳 三角縁神獸鏡

鈕（チュウ）

鈕座

獸紋

乳

波文帯

鋸紋

三角縁

神像

東王父と西王母・傘松形

靈獸

東の青龍・南の朱雀・西の白虎・北の玄武

